

# 令和6年度農作物有害動植物発生予察情報 注意報第2号

令和6年7月2日  
山形県病害虫防除所

- 1 病害虫名 いね 斑点米カメムシ類  
(アカスジカスミカメ：写真1、アカヒゲホソミドリカスミカメ：写真2)
- 2 対象地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発表の根拠
  - ア. 特別巡回調査（6月26～28日）で実施した畦畔・農道等におけるすくい取り調査（調査地点数：41か所）の結果、斑点米カメムシ類の発生確認地点率は98%、平均すくい取り虫数は38.5頭で、6月後半（6月17～18日）の巡回調査時（74%、10.8頭）から急激に増加している（図1、2）。
  - イ. 畦畔・農道等において、イネ科雑草が繁茂しているところで多くすくい取られ、100頭を超えるところが5地点（12%）見られている。
  - ウ. 水田内におけるすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生確認地点率は63%で、6月後半の巡回調査時（26%）から増加している。
  - エ. 向こう1か月の気温は高いと予報されており、斑点米カメムシ類の水田内への飛来や加害活動が活発になると推測される。
- 5 防除対策
  - ア. 畦畔、農道、休耕田等で現在雑草が繁茂しているところでは、速やかに除草を行う。
  - イ. 出穂2週間前頃（7月中旬頃）までに畦畔、農道、休耕田等の除草を徹底し、生息場所での密度低減を図る。なお、刈り取った草は放置せずに搬出する。
  - ウ. アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメは移動性が高いことから、地域ぐるみで一斉に除草を行い、地域全体の密度低減を図る。
  - エ. 休耕田等で雑草が繁茂しているところでは、耕うんによる除草も効果が高い。
  - オ. 出穂期前後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水田侵入を促し、斑点米の発生を多くしやすいので原則行わない。やむをえず草刈りを行う場合は、水田の薬剤防除計画に合わせて実施する。
  - カ. 水田内にイヌホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエが多い圃場では、斑点米カメムシ類の水田内での発生が多くなるので除草を徹底する。
  - キ. 穂揃期および穂揃期7～10日後の2回の基本防除を徹底する。なお、出穂期が早まると予想されているので、圃場の出穂状況をよく確認し、適期に防除する。

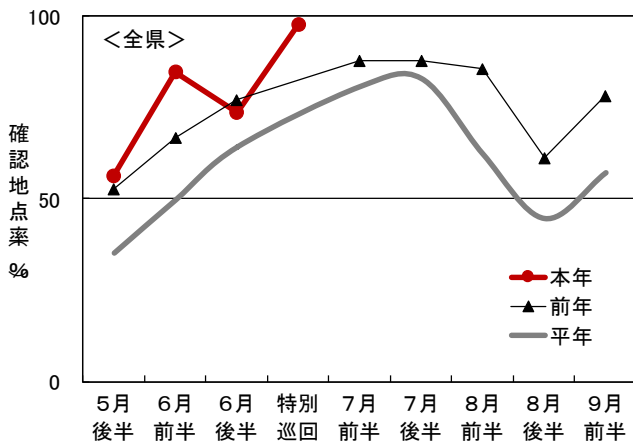


図1 斑点米カメムシ類の畦畔・農道等における発生確認地点率

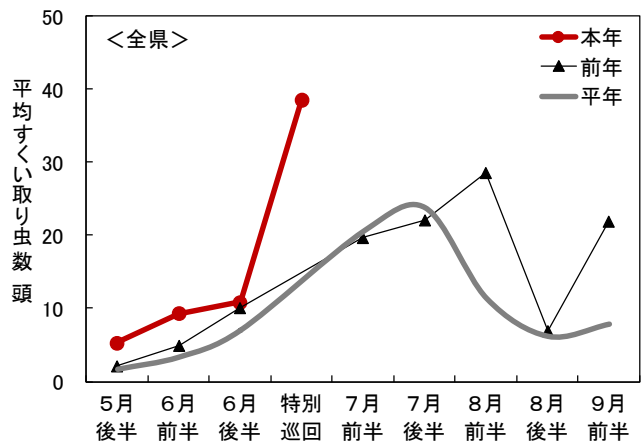


図2 斑点米カメムシ類の畦畔・農道等における平均すくい取り虫数

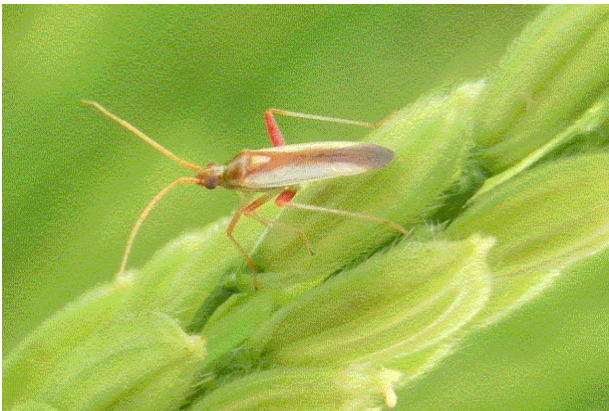


写真1 アカスジカスミカメ



写真2 アカヒゲホソミドリカスミカメ

**山形県農薬危害防止運動実施中**（実施期間 令和6年6月1日～8月31日）

農薬の使用に当たっては、**農薬使用基準（収穫前使用日数、使用回数など）を遵守する**とともに、周辺圃場の農作物や住宅地等へ飛散しないよう十分留意する。

また、広域的に防除を行う場合は、学校等公共施設、周辺住民、養蜂家等への防除計画の事前周知に努めるとともに、防除従事者は防除衣等の着用や体調管理に努める等、農薬使用による危害防止対策を徹底する。

山形県病害虫防除所	本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382

山形県病害虫防除所トップページ	<a href="https://agr.in.jp/theme/byogaichubojosho/index.html">https://agr.in.jp/theme/byogaichubojosho/index.html</a>
農作物有害動植物発生予察情報	<a href="https://agr.in.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html">https://agr.in.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html</a>